

令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「 ぎせい者0に 」

広島県 尾道市立高須小学校 4年 平尾 和太^{ひらお かずひろ}

今から5年前の平成26年8月20日、広島土砂災害が起こり、多くの人や建物に被害が出ました。ぼくのおばあちゃんが住む安佐南区においても、1時間に最大87ミリメートル、24時間累積最大247ミリメートルという集中豪雨が観測されました。その日は1日中雨が降って、特に夜は雷がひどく鳴りひびき、夜中じゅう明るかったとおばあちゃんは言っていました。

次の日、おばあちゃんが畑に行ってみると、広い範囲で大切な畑がメチャクチャになっていました。畑は大量の土で埋まり、野菜を作っていたことが分からないほど景色が変わっていました。小屋の中にも木や大きな石が入りこんでいて、がけも崩れていて、ただただ恐ろしかったそうです。「どうしたらいいか…。どこから手をつけたらいいか…。」どうしたらよいかかわからず、ボーンと立ちつくしたと言っていました。

しばらくたって、おばあちゃんは新聞でボランティアの記事を見つけ、安佐南区にボランティアはけんを要せしました。ボランティアの方々は3日間で40人来られ、一生懸命土を運び出すお手伝いをして下さいました。その中の1人、広島経済大学の先生は、「この地域は自分達が守る。」と言って下さり、おばあちゃんはとても心強かったそうです。

あの土砂災害から5年たった今、おばあちゃんの住む地域では、ひなん道路や砂防えんていなどの実施が10年計画で1歩ずつ確実に進んでいるそうです。砂防えんていとは、土石流を食い止めて、人家や公共施設などを守る施設で、高い効果が期待できます。

また、同じ地域で2人もぎせい者が出てしまったので、もう2度とぎせい者を出さないために、町が一丸となって安全な住み家づくりや非常時の声かけなどについて話し合っているそうです。

今回、おばあちゃんの体験を取材した時、おばあちゃんは涙を流しながら話してくれました。この涙がどれだけ大変だったか、どれだけつらかったかを教えてくれました。ぼくはこの涙を決して忘れません。

土砂災害は、いつどこで起こるかわかりません。まずは、今回の土砂災害から様々なことをしっかり学び、その教訓を活かして、日頃から災害に備えておくことが大切だと思います。もし、ぼくの住む地域で大雨が降ることがあったら、警戒レベルやひなん所などの情報を収集し、早め早めにひなんして、まずは命を守ろうと思います。また、地域の人々が協力して助け合うことも大切なので、高須のみんなで声をかけ合って、1人もぎせい者を出さないようにしたいです。そのためにも、日頃から仲の良い町づくりにむけて、自分ができることに精いっぱい取り組みます。